

令和5年度 小平市立小平第九小学校 学校評価報告書

**学校教育目標** ○よく考えずんで学ぶ子 ◎助け合うやさしい子 ○心も体もたくましい子  
 人権尊重・生命尊重の精神を基調とし、心身共に健康で人間性豊かな児童の育成を目指す。同時に、グローバル化、情報技術革命、SDGs、環境問題、少子高齢化等社会や時代の変化に主体的に対応し、持続可能な社会の創り手となるための基礎を培うことを目指す。

**目指す学校像(ビジョン)**  
 【目指す学校像】 誰にでもやさしく、誰からも愛される学校 ～一人を大切に、みんなを大切にする学級、学校づくりを通して～  
 【目指す児童・生徒像】 ●将来に向かって、学び続ける子 ●自他を大切にする子 ●運動に親しむ子 ●地域を大切にする子  
 【目指す教員像】 「一人を大切に、みんなを大切にする学級、学校づくり」を目指す教員(日々の研究に励み、指導力を高める、指導者としての人間性が豊かな教師)

**前年度までの学校経営上の成果と課題**  
 学校評価のあいさつ、保護者・地域との連携、居心地の良い学校づくりの項目を中心に、各項目において保護者・地域の方から概ね良好な回答を得ることができた。今年度も「誰にでも優しく、誰からも愛される学校」の実現のため、自分のことも相手のことも大切にすることを第一に、教育活動を推進していく。  
 小平第三中学校、小平第二小学校、鈴木小学校とともにすすめている小中連携教育のテーマである「学力向上」に向けての取組内容を各種通信、ホームページ等を活用し、保護者や地域に伝えていく必要がある。

	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組評価	成果評価		取組評価	成果評価		
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習で東京ベーンシックドリルを活用し、計算、漢字練習、読書を行う。</li> <li>算数習熟度別指導では3年生以上の算数は、2学期3週間を行う。(3年生は3学期4週間)</li> <li>九小スタンダードに基づいた教室環境づくりを行う。学期に1回、チェックリストを用いた点検を行う。</li> <li>年3回の読書旬間を実施し、朝読書や読み聞かせを行う。</li> <li>図書室の掲示物を季節ごとに変更し、推薦図書を年間10回変更して提示する。</li> <li>読書マラソンを行い、読書の記録が蓄積できるようにする。</li> </ul>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京都学力調査の「授業の内容がどのくらいわかりますか」の項目では、国語で95%、算数で90%の児童が肯定的回答をいっている。引き続き、東京ベーンシックドリルを活用した朝学習の実施と算数習熟度別指導の継続により、児童の基礎的・基本的な学習の定着につなげていく。</li> <li>九小スタンダードに加え、学年内での教育担任制を実施していることで、計画的な指導、統一的な指導ができている。</li> </ul>	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業ルールを大切にし、分かりやすい授業を実践している」と回答が多かった。引き続き、学習規律を定着させ、児童にとって分かりやすい授業を行ってほしい。一斉指導をする中でも、個に応じた指導も心がけてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケート、児童アンケートともに「分かりやすい授業」についての肯定的回答が90%に到達している。次年度も、九小スタンダードに基づいた学習環境の整備、東京ベーンシックドリルの活用を継続することで、児童の学力向上に取り組む。</li> </ul>
健全育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京都人権尊重教育推進校、小平市研究推進校として、「自己肯定感を高め、自分のことも相手のことも大切にできる児童の育成」を校内研究のテーマとして取り上げ、目指す学校像に迫る。校内研究授業を全ての学級で実施する。</li> <li>管理職が、一人一人の教員に年間10回の授業観戦を行い、とりよみ関係づくりを指導する。</li> <li>年3回の特別支援教育の教員研修会を実施し、児童理解の方法や内容、特別支援教育の進め方を研修する。</li> <li>いじめに関する子どもアンケート調査、いじめ防止授業を全年対象に年間3回実施する。</li> <li>子供の生活の様子に関するアンケートを2</li> <li>毎朝、全教員が玄関、教室で登校する児童を待ち、あいさつ活動を行う。</li> <li>実施期間を決め、あいさつ隊の児童があいさつ活動を行う。</li> <li>毎月1回、朝会等であいさつの大切さを校長や教員が講話として話す。</li> </ul>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力学習状況調査の「先生は、あなたよりいじめを認めてくれていると思いますか。」「いじめは、どんな理由があってもいいことだと思いますか」の項目では、共に肯定的回答が90%に達している。引き続き、児童一人一人の良さを認め生かしていく学校教育、集団で関わり合い方を伸ばし合える学級・学年づくりを取り組んでいく。</li> <li>校内研究として、全年で人権教育をテーマとした模擬授業を行い、授業力の向上に取り組んだ。</li> </ul>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>「児童が居心地の良い学級・学校づくりに努力している」と回答が多い。今後も児童一人一人が楽しく学校生活が送れるようにしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度も、「助け合うやさしい子」を重点目標とする。「自己肯定感を高め、自分のことも相手のことも大切にできる児童の育成」を研究主題とし、「誰にでも優しく、誰からも愛される学校」の実現のため、気持ち伝え合い、認め合う活動を今後も重視していく。また、本年度の研究での成果を次年度以降も継続し、人権教育のさらなる推進を目指す。</li> <li>道徳の授業を充実させると共に、いじめ防止授業を年3回実施し、児童の人権に関する知的理解を促し人権感覚を養う。</li> </ul>
健康・体力づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養士や薬剤師との連携による食育や薬物乱用防止の授業を各学年1回以上実施する。</li> <li>「早寝、早起き、朝ご飯」の指導を毎月の全校朝会等で行うとともに各種の通信で啓発活動を行う。</li> </ul>	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養士と連携して行ったカルシウムの授業後、給食の牛乳の残量が各段に減った。今後も、栄養士と連携し、児童の実態に合わせた食育の授業を実施する。</li> <li>「早寝、早起き、朝ご飯」について、全校朝会、学校だより、保健便り等で発信したところ、遅刻が減り、スムーズに1時間目の授業に取り組むことができるようになった。</li> </ul>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>「早寝・早起き・朝ご飯」についてよく指導している。家庭の事情で朝ご飯を食べず登校しない児童もいる。引き続き、保護者に協力を呼びかけるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間を守って生活でき、給食を残さずに食べている児童が多い。今後も食育の授業を通して、児童に食に対する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるようにしていく。</li> <li>「食育指導」の取組について、学校便り、ホームページなどを通じて定期的に発信していく。</li> </ul>
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力テストの結果を分析し、体育委員会を中心とした体力アッププロジェクトを学期に1回実施する。</li> <li>「たてわり活動での遊びやなわとび等の体育的な集え活動」を年間10回程度実施する。</li> </ul>	4	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力テスト実施前に、体育委員会による体力アッププロジェクトを体育館で実施した。課題の「投げる運動」の数値が向上している。また、休み時間はドッジボール等で元気に遊ぶ児童が増えている。</li> <li>全校長縄大会を実施する等、児童が楽しみながら運動できる機会を設けた。中休みや昼休みは外遊びをする児童が増えたことから、成果が見られる。今後も、日常的に体を動かす心地よさを味わえるようにしていく。</li> </ul>	4	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>校庭で意欲的に遊んで体力をつけようとしている児童もいるが、運動や外遊びが苦手な児童がいる。休み時間に校庭で遊び、体を動かす機会を増やしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学期の体力アッププロジェクトや体育委員会が企画したマラソン旬間、縄跳び週間など、休み時間を活用し、様々な取組を行うことができた。</li> <li>たてわり遊びは、全児童が学年を越え、校庭で運動遊びを増やして運動機会となった。</li> </ul>
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域・保護者から学習支援ボランティアを募り、多くの目で学級・学校を見守る。</li> <li>「青少対と連携協力した行事を年間3回行う」。</li> <li>地域・保護者と連携、協力して「ハッピー九」活動を年間10回程度実施する。</li> </ul>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校支援サポーターとの連携により、各学年で計画的に地域人材を活用した学習、ボランティアの支援を受けた活動に取り組むことができた。児童の学力定着や学習意欲の向上につながっているため、今後も協力体制を継続していく。</li> <li>ハッピー九は毎月1回実施した。多くの児童が地域の方と一緒に昔遊びに夢中になって取り組んでいた。3学期には、ボランティア感謝集会を実施し、ボランティアの皆様へ感謝の気持ちを伝えることができた。</li> </ul>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な機会に保護者や地域の方々の協力を得ることができている。</li> <li>図書、ハッピー九、学習支援、校外学習引率、水泳、将棋教室、学童農園、登校見守り、ミシン、理科教室、放課後子ども、落ち葉掃き、動物の世話等、多岐にわたるボランティア支援を受け、教育活動を推進していくことができた。今後も、ボランティア支援を継続し、よりよい学校教育につなげていく。</li> </ul>	
小中連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>小・中連携の日の活用(年間3回)を図る。</li> <li>中学校と合同で、あいさつ運動、授業体験、部活動体験を行う。</li> <li>「小・中連携教育」について、定期的に学校便り等で発信する機会を設ける。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>1回小中連携の目で、学力向上について教科ごとに意見を交わし合った。各教科で小学校、中学校の教員が意見を出し合い、研究授業を実施することができた。そこで学びを今後にも生かし、児童のスムーズな中学校への進学につなげていく。</li> <li>学校だより、ホームページ等で小中連携の活動を地域・保護者に向けて発信した。</li> </ul>	4	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「わからない」の回答が多い。地域・保護者に「こどもの小・中連携教育について、本校がどのような取り組みをしているのかの理解が浸透していない。具体的などのような取り組みをしているのか、定期的に家庭に発信していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケート「小中連携の推進」についての項目では、他の項目に比べ、「わからない」という回答が多かった。ホームページ、学校だよりでの発信を継続することに加え、保護者会等での情報発信をし、小中連携した取り組みを伝えていく機会を増やしていく。</li> </ul>
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>掃除や職員連絡会の数を少なくし、その時間を授業の教材研究や児童と関わる時間に充てる。</li> <li>SSS(スクールサポートスタッフ)を活用して学級事務を分担し、一人一人が抱える業務を軽減する。</li> </ul>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内支援システムの活用により、職員連絡会を精選した。週に一度、学年や学級事務に取り組むことができる時間をとることができている。教員の授業準備時間を確保し、授業力の向上につなげていく。</li> <li>SSS(スクールサポートスタッフ)の協力体制ができている。今後も効果的に活用することで、教員が児童と向き合う時間を確保する。</li> </ul>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業を参観すると、多くの教員が笑顔で児童とやり取りながら授業を進めている。教師にゆとりが感じられることから、働き方改革が適切な方法で進められていると感ずる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務作業量の減少、教材研究や児童と関わる時間の増加など、勤務の負担が軽減できていると考える教員が多い。引き続き、業務の重なりや担当の負担など、学校全体の業務を見直し、勤務環境の改善を図る。</li> </ul>